

3 手荷物は一カバンひとつ。 機内は貴重な読書タイム

Highly effective habits of millionaires

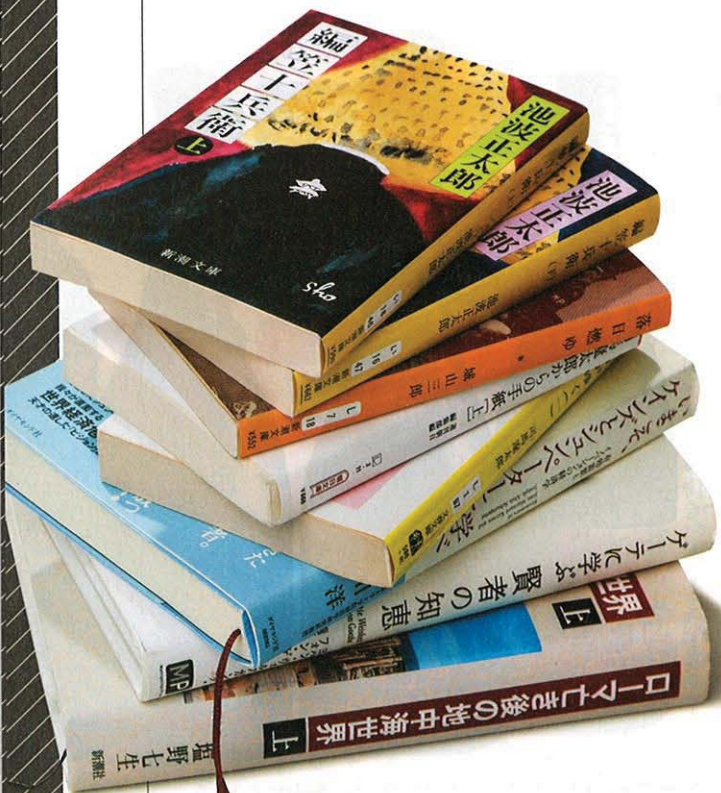
長

年CAとして勤務している、ファーストクラスの搭乗者であつても、機内に持ち込む手荷物の量で「超一流」かそうでないかがひと目でわかるようだ。

「とにかくファーストクラスに乗り慣れた常連のお客様は、手荷物が少ないのが特徴です。身のまわりがコンパクトでシンプルなのです。もちろん、チェックイン時に荷物をお預けになっていたり、秘書の方が別のクラスに搭乗されたりするので、持ち込む必要がないのかもしれないが」

男性ならビジネスバッグひとつ。女性でもハンドバッグひとつが定番だ。たまに大きな手荷物を持つて搭乗してくると、すぐにビジネスクラスからの「アップグレード客」だとわかるのだそう。

「超一流の方々には、身のまわりのものを選び、要不要の仕分けができる人が多いのです。ビジネスクラスの方々とは大きく大きなバッグを持ち込みがち。機内では絶対必要なものさえあれば十分なのですが、なぜかPCはじめ、あれこれとビジネス関連書類などを大量に持ち込まれ、フライト中も常に「超多忙」のご様子が見て取れます……」



ビジネスクラスでは約七割の乗客が機内で仕事をしているそうだが、しかし、ファーストクラスの乗客も同じビジネスマンである以上、忙しいのは同じ。だが、ファーストクラスで仕事をしている人は、ほぼゼロだという。

「多くの方が会話を楽しんだり、読書をしたり、シートを倒して休んだり、リラックスした時間を過ごされます。みなさん機内ではビジネスモードをオフにして、日常を切り離していらつしやる様子でした」

リラックス&リフレッシュモードのファーストクラスの乗客には、機内での時間を読書タイムに充て

ている人も少なくないという。とくに最近では、ファーストクラスは完全プライベートブースが多く、十数時間をゆったり過ごせる快適な仕様となっている。

「手荷物はシンプルですが、みなさん必ずと言っていいほど、本を携帯されます。多い方で、一〇冊以上の本をお読みになる方もいらっしゃるいました。そういった方は紙袋に本をどつさり入れて機内に持ち込まれます。ファーストクラスのお客様にとって、フライト時間のほとんどが読書タイム。とにかくみなさん熱心に本を読まれていました」

社会的地位がある人でも、マ

カーで印を付けたり、気になる個所に付箋を貼ったりしているという。彼らにとって読書は単なる趣味ではなく、人生や仕事をより向上させるためのヒントを探す、ある意味「投資」。蓄積した情報をアウトプットする必要のない機内では、新たな情報をインプットする時間に充てているのだ。

ただし、彼らが読んでいるのは難しいビジネス書ではない。歴史小説や伝記といったジャンルが目についたという。

読書家の乗客の中には、一冊一冊読み終えるごとに書評をメモにまとめたり、その本の読みどころを書き出すこともあるようだ。

「到着後、『悪いけれど、本を処分しておいて』と頼まれるのですが、その際、本と一緒に自分の書評を渡してくださるのです。わたしたちCAは、その書評を拝見し参考にしながら、読みたい本を分け合うこともありました」

ファーストクラスの常連たちの手荷物が「シンプル」で「コンパクト」であるそのわけは、リフレッシュに不要なものは機内に持ち込まないからである。必要最低限の身のまわり品、そしてフライト時間を有意義に過ごすための本があれば十分なのだ。

2 財布は「二つ折り」、 靴は揃える

Highly effective habits of millionaires

よ

く、「お金持ちは、高級ブランドの長財布を使う」と言われているが、美月氏はこれには疑問を感じているという。

「ファーストクラスの常連であるビジネスエリートの方々が多く使っていたのは、二つ折りのシンプルな財布です。特定のブランドにこだわっている様子はなく、使いやすさ、スーツの内ポケットにスマートに入る大きさを重視しているようでした。もちろん、財布がお札やカード類でパンパンになっていることはありませんでした」

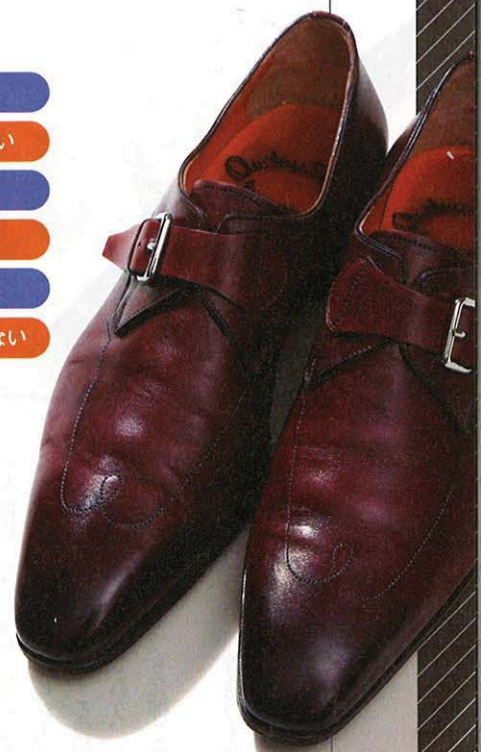
財布がスッキリ薄いの、現金を必要以上に持ち歩かず、カードで支払うスタイルが定着していることもあるだろうが、またにも広がる「二つ折り財布（お金を折る）」では、金持ちになれない」というジンクス（？）は、ファーストクラスに乗る超一流ビジネスエリートたちには当てはまらないようである。

「ビジネスクラスやエコノミークラスほど、ブランドロゴが全面に刻まれた財布をお持ちの方が多くですね」

ビジネスクラスではとくに「頑張っている自分」を主張したがるビジネスマンが多いのだろうか。使い切れないほどの機能がつい

超一流の身だしなみポイント

- 1 靴はいつもピカピカ
- 2 上着を椅子の背もたれにかけない
- 3 ワイシャツは清潔な白
- 4 姿勢がよい
- 5 財布はシンプルな二つ折り型
- 6 高級ブランドの宣伝マンにならない



たシステム手帳、分厚いブランド財布を持ち歩き、つい「仕事ができるオレ」「経済的にも余裕があるオレ」をアピールしてしまうように思える。

仕事における酸いも甘いも経験し、ファーストクラスを利用するに至っている超一流のビジネスエリートたちにとっては、もはや「人からどう見られるか、どう見せるか」よりも、「自分がどうなのか」にこだわりがあるのである。

美月氏によると、ファーストクラスの顧客がこだわりをみせるの

は、むしろ財布よりも「靴」だと語る。

「靴は、いつもピカピカに磨かれています。リペアされ大事に使用されているのわかります。搭乗後、みなさんプリセットされているスリッパに履き替えられますが、脱いだ靴の置き方に見事に共通点がありました」

ビジネスエリートたちは、脱いだ靴をキレイに揃え、邪魔にならないよう、人目につかないよう通路から遠い位置に置くのだそう。

「揃えて置くのは、日本人として躰けられたら当然だ」と、思う人もいられるだろう。しかし、このマナーができていないビジネスマンは案外多いのも事実だ。

居酒屋の宴会場の上がり口に、くたびれたビジネスシューズが散乱している光景に見覚えのある人もいられるだろう。現にエコノミークラスでは、脱いだ靴が通路に転がっていることも多いという。

「ある高級旅館の女将にお聞きした話ですが、靴の脱ぎ方、上がり方でその人の人となりかわかるのだそう。やはりビジネスでトップに上りつめた方々は、脱ぎ方もきちんとしていそうなんです。ファーストクラスの方々も例外なく、きちんと脱がれ、しかも靴の中が見えないように、あらかじめスリッパと一緒に用意しているミニ靴ベラやシューズクロスでわざわざ隠してから、奥に置かれます」

足の裏は汗腺が集中している部分でもある。目に見えずとも汗や脂で汚れているのは当然だ。その汚れを他人に晒すのは失礼と思う感覚さえも、ビジネスエリートたちには共通しているのだ。

「足元を見られる」とはよくいったものの、靴の状態や扱いいかんでその人物の印象が左右されるのだ。「コートや上着も座席の背もたれにはかけず、CAがハンガーにかけやすいようにと、わざわざ向きを変えて持っていくくださったり、渡してくださいます。クルーへの気配り同様、ご自身の衣類を大事になさる姿勢にいつも感心させられました」

目頭使用するモノへの愛着とこだわり、そして丁寧な扱いは、ビジネスエリートの証しのようなのだ。